

言語活動の充実の取組

倉敷市立中洲小学校







1 はじめに

本校では、授業はもとより生活全般において、自分の思いや考えを伝えることに苦手意識をもつ児童が多く、全国学力調査の「活用」問題にも課題がありました。そこで、「なかすよいこスタンダード」等を作成し、教職員と家庭が連携・協力し、学習環境づくりを基盤に学力向上に向けて取り組みました。

2 学習環境づくり

○「なかすよいこスタンダード」

4 相手の仕方	○手をまっすぐに高く挙げる。 ○ハンドサインで自分の考えを示し、話し合いの内容が分かるようにする。 「意見があります。」 発表・意見	話し合いの内容が分かるようにする。 「同じ内容です。似ています。」 賛成・似ている	「考えが違います。」 反対	チョキ
				
ハンドサイン				

「なかすよいこスタンダード」より

学習への構え、ノートの書き方、話し合いの仕方、学習用具等基本的な学習の約束を細かく定めました。児童の発達段階に依じたものと全学年を見通すことができるものと、合計5種類のスタンダードを作成しました。全学年を見通すことができるものは保護者に配付し、学校全

体が基本的な学習習慣の定着を目指して取り組んでいることを知らせ、理解を求めました。年度始めや学期始めにはスタンダードをもとに、学習の約束を児童が再確認する時間を設けています。児童は一貫した学習のルールがあることで、安心して学習に臨むことができるようになりました。

○「なかすよいこスタディ大作戦」

これまで児童の基本的な生活習慣を整えるために、保健室からの「いきいきポイントカード」を活用してきました。基本的な生活習慣を整えることで、集中して学習にも取り組むことができると考えたからです。さらに一昨年度から「なかすよいこスタディ大作戦」という学習エックカードを作成し、家庭学習や家庭読書の頑張りや焦点化した取組を行っています。保護者からも「時間を考えながら、テレビを見たりゲームをしたりできていた。」など、チェックカードが効果的だったと継続して実施してもらいたいという声が多く上がりました。

○「なかすよいこ家庭学習のすすめ」
毎日の家庭学習の充実のために、

「なかすよいこ家庭学習のすすめ」を年2回家庭に配付し、保護者の協力を仰ぎ、学校と家庭が連携して児童の意識付けを行っています。

①学習する場所と時間を決めよう。
②家に帰ったら早めに学習しよう。
③テレビを消して集中して学習しよう。
④学習する場所の整理、整頓をしてから始めよう。」という四つの約束、各学年の学習時間の目安、環境を整えること、声かけの仕方など、保護者へのお願ひも明記しています。

3 国語科を中心とした言語活動の充実

へ向けた取組から



自分の思いや考えを伝え合う

次代を担う子どもたちには、主体的に言葉を使い、言葉によって考え、言葉でまとめる活動に意欲をもって取り組ませたいと願っています。

本校では平成25年度より県小学校教育研究会国語部会の研究主題「自覚的なことばの学び手を育てる国語科授業の創造」を受け、本校独自のサブテーマ「自分の思いや考えをもち、伝え合う力を育てる授業づくりを通して」を設定して研究・実践を

行ってきました。

自ら進んで課題を解決し、自分の思いや考えをもち、伝え合うことのできる児童を育てるために、次のように、単元を貫く言語活動を導入しました。

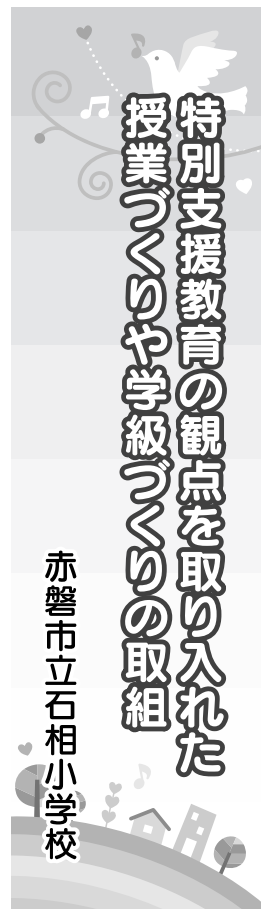
○自分の思いや考えをもつ力を育てる工夫

- ・第一次で単元のめあてをつかませ、第三次の言語活動を見通すことができるようにする。〈後略〉
- 伝え合う力を育てる工夫
- ・ペアやグループでの話し合いの場を設けることで、授業中に自分の考えを伝える機会を保障する。
- ・話し方聞き方の基本的なルールを発達段階に応じて指導する。
- ・第三次で、第二次で習得した学びを活用し、読書に広げたり作品の感想を話し合ったりする活動を取り入れる。

4 おわりに

自分の思いや考えをもち、伝え合うことをめざした取組の成果は授業中以外でも確認できました。例えば海の学習の退所式の場で、他校の児童の前でも多くの児童が自分の感想をしっかりと発表することができました。少しずつではありますが研究・実践が実際の生活の場でも実を結びつつあります。今後も教職員一丸となつてこれらを維持・発展させていきたいと思ひます。

(校長 薬師寺 重利)



特別支援教育の観点を取り入れた 授業づくりや学級づくりの取組

赤平市立石相小学校

1 はじめに

本校は児童数約100人の学校です。次のとおり「知・徳・体」のバランスが取れた児童の育成を目指し、教育活動に取り組んでいます。

- 授業改善、基礎学力、家庭学習、読書活動の充実を四本柱とする「知」の育成
- 特別支援教育、人権教育の充実による「徳」の涵養
- 朝の運動、水泳・陸上指導等の充実による「体」の向上

特に、特別支援教育の充実は大きな課題であり、重点としてきました。

2 授業づくりの工夫

通常学級においても、特別支援教育の観点を取り入れ、どの子も参加でき、どの子もわかる授業を目指しています。具体的には、次の3点を重視して指導を行っています。

① 見通しをもてるようにする指導

本時の学習過程とめあてを示し、学習の流れの見通しをもてるようにしています。課題の解決にあたっては、必要な既習事項や手だてに気づかせ、課題解決の見通しをもてるようにしています。この二つの見通しと同時に、必要最小限で統一感のある視覚支援、児童のノートを意識して整理された板書も大切に行っています。

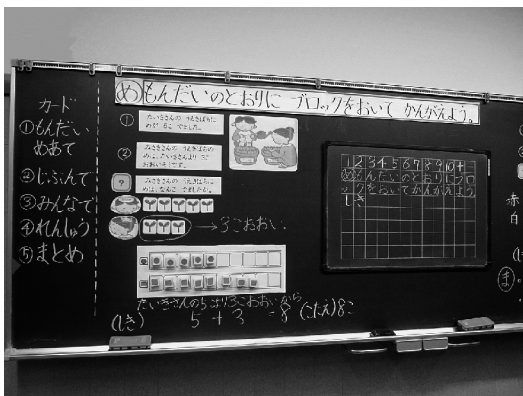
② 表現力を高める指導

「わかる」ことは「表現できる」ことととらえ、表現力の育成を大切に行っています。ノートに考えを学年分の行数以上書かせたり、個別の考えをペアやグループで確認してから全体討議を行ったり、指名無し全員発表や児童によるリレー指名を行ったりしています。また、全校群読、全校合唱に継続して取り組み、自分の声で思いをしっかりと出すことができるようにしています。

③ 個別の支援が必要な児童への支援
①、②の指導を行う上で、指示・発問の明確化、児童の力を鍛える意識をもつことを大切にしています。同時に、全体の流れから遅れがちになる児童に、ヒントカード、内容の一部書き込んだワークシート等を用意したり、細やかに声掛けを行ったりすることも大切にしています。

3 環境づくりの工夫

授業づくりと同時に、環境づくりも大切に行っています。目指すのは、特別支援が風土の学校づくりです。



構造化された板書の工夫

① 教室環境の整備

教室の前面掲示をなくし、ロッカールームを整理したり、覆いをつけたり

することが、学校で当たり前になってきました。本校では毎学期、教員相互及び管理職による環境チェックを行って確実に実施できるようにしています。

② 特別活動における特別支援の充実

運動会、卒業式等の学校行事、児童朝会等の全体指導の場でも、めあてと指導の流れをホワイトボードに掲示したりプロジェクトでスクリーンに映したりし、授業以外の指導場面でも授業に準じた指導の工夫を行うようにしています。

4 その他の工夫

① 毎週木曜日の学年会

特別支援学級と各学年の担任が次の交流学習の計画や相談、気になる児童の情報交換を行っています。

② 保・小連携会議

児童の多くは石相保育園から入学します。授業参観や情報交換会によって、特別支援を要する児童を保小で連携して指導できるようにしています。

③ 保護者への啓発

児童精神科医、発達障害の専門家を招いてPTA研修会を実施し、特別支援教育啓発も行っています。

(前年度校長 金光 一雄)



1 はじめに

本校児童は、ここ数年、全国学力調査等では、良好な結果が出ていますが、限られた条件で文を書いたり、いろいろな条件を関連づけて説明したりするなど、「書くこと」は課題としてあげられていました。また、算数においては、数学的な考え方で正答率が低く、活用する力も十分でないなどの傾向が見られました。家庭生活では、就寝時間が遅い、テレビやゲームに費やす時間が長いなど、

2 取組の概要

このような実態を受けて、学力の定着と向上、生活習慣の確立に向けて、児童一人一人の課題に応じた習熟度別指導や小中連携・小中連携による授業づくり、学びのスタンダード等を活用した授業実践、集団による学び合いなど、分かる授業づくりに取り組みました。分かる授業づくりでは、『魅力ある授業づくり徹底事業』を校内研究の核に据え、全学級で授業公開し、授業観察シートを

活用した授業参観を行い、反省会、授業改善へと繋げていきました。また、落合中学校区では、「十一30運動」「毎月19日のノーマメディアデー」など、生活習慣の改善に向けて共通の取組を行ってきました。

3 成果と今後の課題

授業観察シートを使って研究授業を行うことで、「授業のはじめに学習のねらいや目標が示されている」「グループで様々な考えを出し合い、深め合う場面がある」「授業の終わりに学習のまとめをしている」を全授業場面で徹底できました。「めあてとまとめ」、「ペア学習・グループ学習」「教科書やノートへの書き込み」が授業の中で意識でき、全教職

員で共通理解し、授業改善がなされました。また、放課後の20分間を全校児童を対象に「補充学習の時間」として、昨年度から取り組んでいます。過去問題や類似問題も取り入れ、基礎学力定着や活用力をつけることを目指しています。本年度は、地域のボランティアの力もお借りして、さらに個に応じた学習時間となるようにしていきます。

生活習慣の改善が求められ、多くの児童もこの実態がありました。

日時	平成 年 月 日 ()	時間	授業者	クラス	年 組 (名)
科目					
評価基準	A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない 一:評価できない				
項目	評価	メモ			
導入	1 児童・生徒の学習に対する準備の確認ができています。				
	2 授業のはじめに、学習のねらいや目標が示されています。				
	3 興味、関心、意欲を喚起する工夫がされています。				
展開	4 正確でわかりやすい説明ができています。				
	5 全員に伝わるよう明確に指示・発問がされています。				
	6 児童・生徒の思考を深めたり、広げる発問がされています。				
	7 自分で考える場面が設定されています。				
	8 グループで様々な考えを出し合い、深め合う場面があります。				
	9 児童・生徒の応答を授業展開に活かしています。				
	10 学級全体で考えを共有する場面があります。				
終末	11 授業の終わりに、学習のまとめをしています。				
	12 次時の予告や家庭学習へのつながりがあります。				
全体	13 板書は分かりやすく工夫されています。				
	14 児童・生徒のノートは読み返せることのできるものになっています。				
	15 フラッシュカードや教材・教具を効果的に活用しています。				
	16 内容に応じて学習形態や学習活動を工夫しています。				
	17 児童・生徒の意欲を授業に向けています。				
気づき、授業者へのアドバイス					

授業観察シート



6年生国語科でのグループでの話し合いの場面



放課後補充学習(白梅タイム)

4 おわりに

児童の一人一人の「わかった」「できた」を大切に、今後も全教職員で共通理解し、一丸となって取り組んでいきたいと思います。

(前年度校長 高橋 渉)



岡山市立竜操中学校

1 はじめに

本校は、昭和46年に岡山市中心部のドーナツ化現象により急速に宅地化された地域に開校し、創立45年目を迎えます。

現在の生徒数は1000名を超え、岡山市最大規模の中学校となっています。「人権尊重・自主自立」の校訓のもと、全教職員が一丸となって魅力ある、活力ある学校づくりに取り組んでいます。

2 取組の経緯

大規模校である本校は、暴力行為や器物破損、授業放棄、喫煙、いじめ、不登校など多様な生徒指導上の課題を抱えています。

こうした課題を解決するために、平成22・23年度の2年間、国立教育政策研究所「魅力ある学校づくり調査研究事業」に取り組み、不登校の未然防止に焦点を当てた集団づくりや授業づくりを推進しました。この中で、次のような課題が出てきました。

・様々な個性をもつ生徒が相互に豊

かな人間関係を構築し、集団への適応力を身に付けることが必要。

・一人一人の生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを工夫することが必要。

そこで、平成24年度から3年間、岡山市教育委員会の「共に成長し合う学級集団づくり推進事業」モデル校として、質問紙調査のASSSES(S:アセス)を活用した集団づくりの実践に取り組むことにしました。

3 取組の概要

ASSSESの分析結果を活用し、学級や個々の生徒への支援・指導につなげて行きました。

ASSSESは年4回実施し、年度当初の実態把握と各学期の取組の評価及び次学期に向けての取組の検討資料として活用しました。また、平素の生活や授業の観察、教育相談、生活アンケート調査等と合わせて、総合的に実態を把握することができました。分析結果をもとに、学年、学級、授業等での取組を考え、実践につなげていきました。

(1)「実感できる」授業づくり

○授業のめあて・流れの明示、振り返りの時間の確保

・授業の構造化(時間配分・流れの見直し)を意識した授業

・学習方法が分かり、自己評価(振り返り)できるめあての設定

○小グループ活動(ペア、学習班など)の効果的な導入

・グループ学習ができる学級・授業の雰囲気づくり

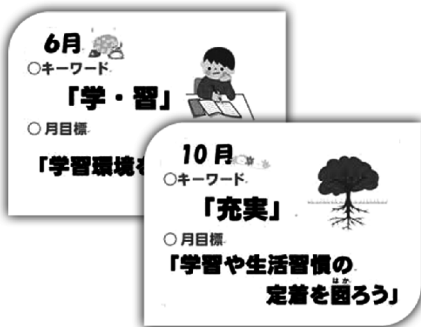
(2)「共に成長し合う」学級集団づくり

○月目標・キーワードを意識した「とこトン・プラン」の実施

・月ごとの目標とキーワードを教職員と生徒会で協力して作成し、それを意識した実践をする。

○ASSSESによる学校適応感の把握

○出席データ管理システムを活用した生徒の実態把握と指導・支援



「とこトン・プラン」の月別目標

4 おわりに

質問紙調査(ASSSES)は、学級集団や個人の状態を把握するツールとして定着しており、客観的なデータに基づき、より確かな支援を行うことができるようになりました。そして、教職員と生徒、生徒同士によりよい人間関係づくりが着実に進んできた実感しています。

今後も、生徒の居場所づくりや絆づくりの取組を充実し、生徒指導上の諸問題の未然防止につなげていきたいと思えます。

(校長 堀井 博司)



めあてを明確にした授業

小中連携による落ち着いた学習環境づくりと
学習意欲を高めるための授業改善の取組

里庄町立里庄中学校区
(里庄中学校・里庄東小学校・里庄西小学校)

1 はじめに

里庄町は、学校教育に対する理解や支援の手厚い地域で、町内に里庄東小学校、里庄西小学校、里庄中学校の3校があります。各校、純朴でまじめな気質をもった児童・生徒が多いのですが、比較的固定化された人間関係にあるため、人間関係力やコミュニケーション力に課題がありました。また、家庭でのメディアとの接し方や学習習慣にも課題がありました。そこで、小中が連携して指導の重点を決め、全教職員で指導しています。

2 小中情報交換会の開催

児童・生徒の課題を踏まえ、町教育委員会、小中の校長、教務主任、研究主任等で小中情報交換会を開催しています。その中で、育てたい子ども像や具体的な取組の共通理解を図り、子どもを的確に認め、主体性を伸ばすことを大切にしながら、表現力等の育成に取り組んでいます。内容として、①里庄町学力向上重点目標（基礎・基本の徹底、論理的

に書く力の育成、家庭学習の充実）の徹底の指導、②生活規律・学習規律の徹底、③家庭・地域との連携、ふるさと里庄町への郷土愛を育てる取組等があります。各校における取組や抱える課題について、気兼ねなく情報交換をしています。

3 落ち着いた学習環境づくり

学力向上の基盤は、「落ち着いた学習環境」であり、その基本が生活規律・学習規律の確立であると考え、小中共に基本的な生活習慣の定着を図っています。

「あいさつ」では、児童会や生徒会、地域・PTAを挙げてのあいさつ運動を行ったり、全校であいさつ名人の選出などを行っています。「そうじ」では、一歩進んで目に見えないところを意識的に行う美化を心がけたりしています。「はきもの」では、はきものをそろえることは、心を整えることということを指導しています。「話の聴き方」では、授業中や集会時に、話す人に正対して聴くよう指導しています。

4 学習意欲を高めるための授業改善の取組



はきものをそろえる

小中連携による里庄町学力向上重点目標の徹底の指導に取り組んでいます。「基礎・基本の徹底」では、子どもにわかりやすい授業改善の取組を行っています。岡山型学習スタンダードの推進を図り、授業でめあてを示し、目標達成度を確認しています。「論理的に書く力の育成」では、授業の終末の振り返りでノートにまとめと感想を書かせています。「家庭学習の充実」では、児童・生徒・保護者への啓発として家庭学習調査の実施を行ったり、学習の手引きを活用したりしています。

また、「hyperIQ」を小1から中3まで実施したり、メディアとの接し方についての取組を行うたりしています。その他、小中相互授業参観、出前授業、体験活動の実施、教職員の合同研修会等を実施しています。



中学校授業体験
(技術・家庭科のロボット操作を小学生が見学)

5 おわりに

これまでの各校による実践により、小中で連携して学力向上に取り組む土台ができ、成果と課題が少しずつ明確になってきています。成果として、各校とも落ち着いた環境の中で、子ども主体の、わかりやすい授業、充実感や達成感を味わうことができ、授業改善の工夫が行われています。それに伴い、問題行動等も以前に比べて大変少なくなっています。今後、取組の重点化、組織的・継続的な取組の実践、成果と課題の検証が必要であると考えています。

(里庄中学校長 三宅 浩一)